

端午の節句にちなんだ菓子

5 月 5 日は端午の節句。男の子の健やかな成長を願い、鯉のぼりを掲げ、兜や武者人形などを飾ったり、菖蒲湯につかったり、粽（ちまき）や柏餅を食べて祝います。端午の節句にちなんだとらやの菓子をご紹介します。

【端午の節句とは】端午の端とは初めの意味で、午とは午（うま）の日をさします。端午が五月五日に定まったのは、三月三日同様、めでたい奇数が重なる重日（じゅうじつ）思想によるとされます。中国では、この日、病気や災厄を祓ったり、豊穰を願ったりする行事が行なわれてきました。日本でも中国の影響を受け、厄除けが重視され、平安時代の宮中では邪気払いのため菖蒲を軒に插したり、競馬や騎射（きしゃ）が催されたりしました。その一方で、五月は田植えをする重要な月であったため、民間では田植え前の「物忌み」をする習いがありました。中国由来の行事と日本古来の風習はしだいに融合していきませんが、後年、菖蒲の読みが「尚武」に通じることから、武家の祝いとして広まり、江戸時代に男子の節句として定着します。

■端午の節句にちなんだ菓子■

● 粽

小豆の風味を生かした羊羹粽。
最上級の吉野葛を使った水仙粽。
コクのある味が特徴の白下糖入外良粽。（関東地区）
もちりとした食感が特徴の外良粽。（関西地区）

種類 : 羊羹粽、水仙粽、白下糖入外良粽
（関東地区のみ）、外良粽（関西地区のみ）

販売価格 : 1 本 378 円（本体価格 360 円）
3 本束 1,134 円（本体価格 1,080 円）
5 本束 1,890 円（本体価格 1,800 円）
10 本束 3,780 円（本体価格 3,600 円）

販売期間 : 5 月 1 日（火）～5 月 5 日（土）

販売店 : 全直営店、全売店（一部店舗を除く）



★ 粽の由来

粽は、平安時代には宮中の端午の儀式に使われていました。当時は米を真菰（まこも）の葉などで包み、蒸したものとされ、菓子としての甘い粽が広まるのは江戸時代に入ってからです。粽の起源として知られるのが中国の屈原（くつげん）（戦国時代紀元前 4～3 世紀頃）の故事です。楚の国の有能な政治家で詩人としても知られる屈原は、王の政治を諫めようとしましたが聞き入れられず、その後失意のうちに汨羅（べきら）の淵に身を沈めました。人々はこれを哀れみ、5 月 5 日の命日になると竹の筒に米を入れて川に投げ、供養としました。しかし、竹筒の米が汨羅に住む蛟竜（こうりゅう：竜の一種）にみな食べられてしまったため、米を竜の嫌う香りがある楝（おうち：センダン）の葉で包み、五色の糸でしばるようになったということです。これが粽の始まりと言われています。

● 柏餅

上質の小豆の風味豊かなこし餡と、香り豊かな京都の白味噌で仕立てた程よい甘さの味噌餡でおつくりしました。

種類 : 御膳餡（こし餡）、味噌餡
販売価格：284 円（本体価格 270 円）
販売店 : 生菓子販売店、ほか一部店舗
販売期間：4 月 21 日（土）～5 月 5 日（土）
（店舗により異なります。）
※販売店・販売期間の詳細はお問合せください。



★ 柏餅の由来

柏餅が端午の節句菓子として広まるのは、江戸時代と言われています。柏は新芽が出るまで古い葉を落とさないことから、家系が絶えない意味があるとされ、縁起菓子として親しまれる所以となっています。

● 五月のぼり

小形羊羹を端午の節句限定パッケージにてご用意しました。

種類 : 小倉羊羹『夜の梅』（鯉幟）
黒砂糖入羊羹『おもかげ』（兜）
抹茶入羊羹『新緑』（菖蒲）
販売価格：1 本 210 円（本体価格 200 円）
5 本入 1,155 円（本体価格 1,100 円）
10 本入 2,205 円（本体価格 2,100 円）
販売期間：4 月 7 日（土）～5 月 5 日（土）
販売店 : 全店



● 季節の羊羹 中形 菖蒲あわせ

咲き競う菖蒲を思わせる優美な色合いの羊羹です。菓銘は平安時代の遊戯にちなみました。

販売価格：1,953 円（本体価格 1,860 円）
販売期間：4 月 21 日（土）～5 月 5 日（土）
販売店 : 全店

